

地域環境の担い手継承を目的とした 海の魅力発見マップの作成

特定非営利活動法人 瀬戸内里海振興会
毛利優太

1. 広島湾とは…?

～ 広島湾の現状と課題 ～

広島湾の現状

広島湾は瀬戸内海を代表する閉鎖性海域の一つである。

他の代表的な閉鎖性海域である東京湾、伊勢湾、大阪湾に比べ、海域面積、海域容積及び流域面積ともに小さい。また、流域内市町の総面積に占める森林面積の割合は7割以上をしめ、広島湾背後の流域人口、人口密度も上記三湾に比べると少なくなっている。流域人口は1920年から2005年までの約85年間で、約80万人から約180万人に増加し、広島県・山口県の総人口の約42%を占めることとなった。

広島湾は、海域環境の特徴によって、宮島及び江田島より北側の北部海域とそれ以南の南部海域とに大きく分けられる。それぞれ地形や背後条件によって事情は異なるが、現在、図-1.2のような問題が懸念されている。

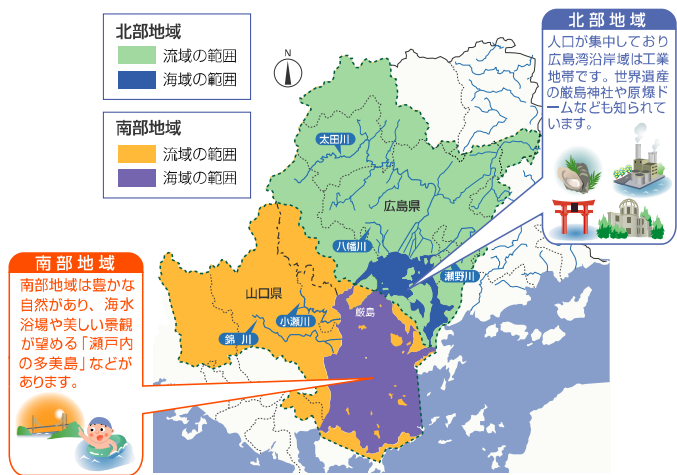


図-1.1 広島湾の範囲

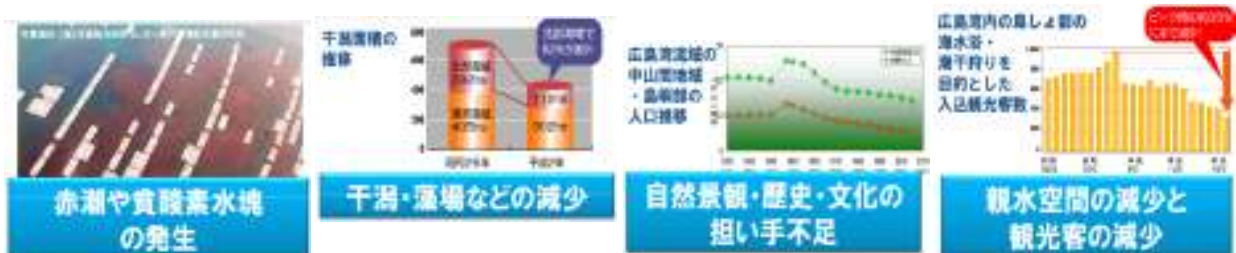


図-1.2 広島湾が抱える課題

2. 広島湾の環境再生のために

～ 本活動のねらいと方法 ～

本活動のねらい

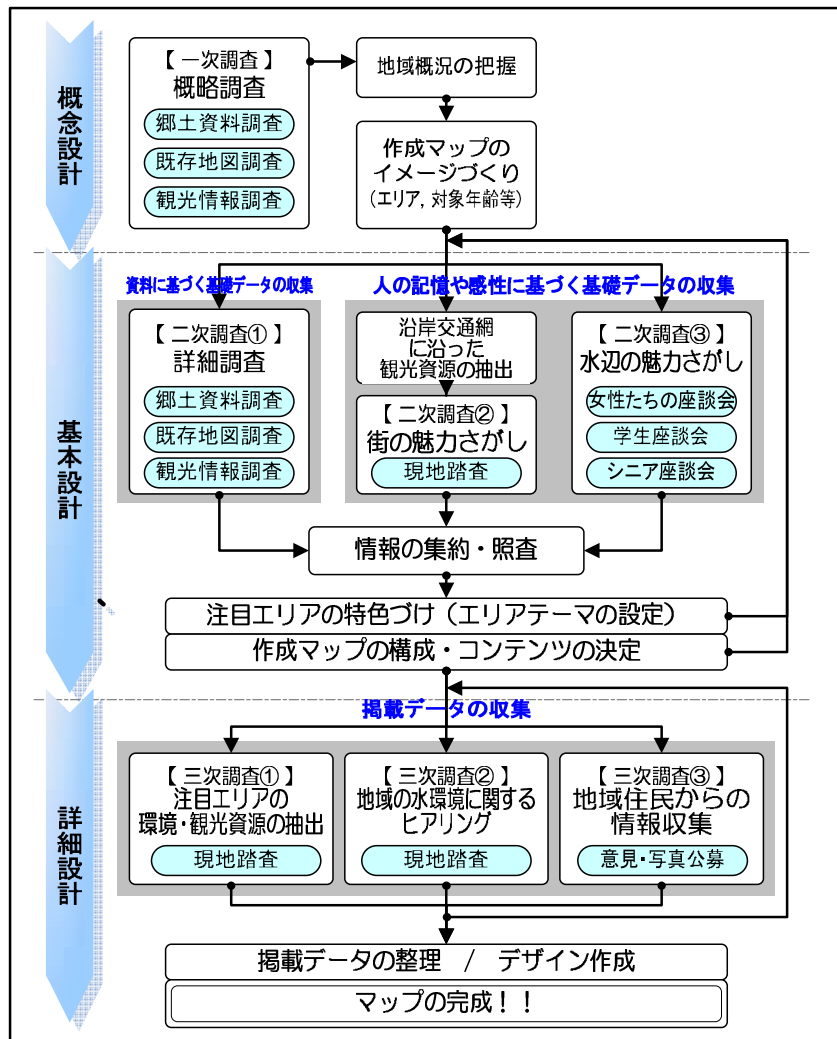
現在、海域環境の保全や再生をテーマとした事業は全国各地で進められて入るが、その一方で“人と海とのつながり”の希薄化が懸念されている。広島湾でも、国及び自治体の行政機関により構成される広島湾再生推進会議により平成 19 年3月に策定された「広島湾再生行動計画」の中で、広島湾再生を進めていくための課題の一つとして“人と海とのつながりを取り戻す”ことが挙げられている。

この“人と海とのつながり”を再生していくためには、人々の広島湾に対する理解と関心を高めていくことが重要であり、環境教育・普及啓発活動等をはじめとする様々な取り組みの実施は、その第一歩として重要といえる。

そこで地域住民が広島湾の海の魅力を再確認し、それを若年層や他地域の人々に伝えることで、身近な場面で海を感じ、触れ合う機会を創出していくための一手段として、『(仮)広島湾情報 MAP』の作成を行った。

(仮)広島湾情報マップの作成方法

マップの作成に当たっては、『地元の家(広島湾)に対する市民の関心度を確認すること』及び『広島湾の環境に対する市民の問題意識を確認すること』をポイントとし、できる限り地域住民の声をマップの中に反映できるよう図-2.1の手順で検討を行った。



《概念設計》

郷土史や自治体が発行する観光マップ等の既存資料用い、広島湾海域及びその背後の流域圏について地域の歴史や環境・観光資源等を概略的に整理し、マップの主な対象年齢やエリア、文字量等のイメージづくりを行った。

《基本設計》

概念設計の結果を踏まえ、既存資料による詳細調査をさらに進めると同時に、現地踏査及び座談会を行い、地域の人々が感じる『広島湾の魅力』について情報を収集した。3つの方法により得た情報は内容を照査し、広島湾沿岸部のエリア別の特徴・魅力を検討するための基礎資料とした。それらを踏まえマップの構成・コンテンツを決定した。

《詳細設計》

基本設計で検討したエリア別の特徴・魅力を踏まえ、住民からの情報公募及び地域の多様な主体に対するヒアリング等により、掲載データを収集・整理し、マップの最終デザインを行った。

図-2.1 マップ作成フロー

4. マップづくり その2

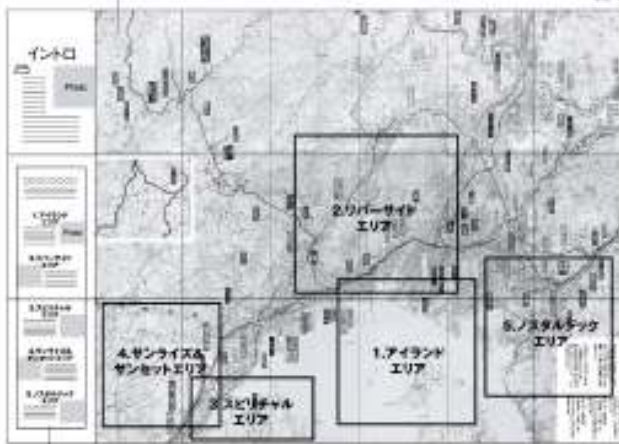
～ マップのコンテンツの決定と住民からの情報収集 ～

マップコンテンツの決定

現地踏査及び座談会で収集した情報等の結果を踏まえ、今回作成するマップは、広島湾や湾に注ぎ込む川沿いで楽しむことのできる遊び場や飲食店などを紹介し、地域に在住の読者にも広島湾の魅力を再確認・体験してもらうことを目的の一つとして追加した。そのため、地図としての位置情報だけでなく、エリアの歴史や文化、地域特性、そこでの遊び方などについても、イラストや写真等の画像を多用し、紹介することとした。

それを踏まえ、地図の構成(案)は以下のとおりとした。

【表面】



エリアの概要と区分

広島湾の北部地域を中心とした広域マップで親水施設、歴史・文化史跡等のほか、水辺に面する飲食店や眺望点などの取材結果を記す。また、海域部分は水深により色分けを施すなど、海側に視線を誘導するよう工夫を凝らす。

【裏面】



広島湾や広島湾で撮影された、広島の街の風景や観光イメージのイメージ

広島湾沿岸地域の多彩さを表現するため「人と海のつながり」の観点からエリアごとに観光テーマや主な対象(性別、年齢層など)を仮定し、それに合う観光スポットを特定ルートに沿って紹介。また、地域住民でも興味を持てるようなオリジナル情報や市民の海への思いやお勧めスポットも合わせて紹介。

掲載情報収集のためのアンケート

今回作成するマップでは、地域の歴史及び環境特性に応じ5つの注目エリアを抽出、テーマ選定し、それに沿った地域情報を掲載することとした。また同時に、その各エリアにゆかりのある人を対象に「地域の海に対する思い」や「地域の海のお勧めスポット」に関するアンケートを実施し、マップの中で紹介をした。

海沿いのPホテルのコンシェルジュをなさっているA子さん(女性、37歳)



あなたが思う広島湾のおすすめスポットは？

「金輪島から覗く、満月が照らす夜の海を対岸(Pホテル広島側)から望むのがお勧めです。波穏やかな海面は、大ホールのステージのようです。1万トンバースに船が停泊していたり、広島大橋のライトアップと重なると、見事な夜のステージです。」

ダイビングショップオーナーのB太さん(男性、50歳)



あなたは広島湾についてどう思いますか？

「広島湾は豊饒の海と言えるでしょう。夏に海水浴に行く人たちが、「瀬戸内海は濁っている。」と、言う事がよくありますが、これは水温の上昇する夏場だけで、他のシーズンには広島湾も透明度を増し、水中では、魚の大群が泳ぎまわっています。この群れを見られるのはダイバーの特権といえるでしょうね。」

豪華クルーズ船船長のC男さん(男性、55歳)



あなたが思う広島湾のおすすめスポットは？

「元宇品の海岸から正面に似島の安芸の小富士が見え、又、宮島に沈む夕陽は絶景です。船から見えるそれらの姿はさらに素晴らしいものです。」

5. マップの完成

～ 完成したマップのポイント ～

広島湾情報マップの主なポイント



図-5.1 表面



図-5.2 裏面 (スピリチュアルエリア～宮島編～)

6. 活動を終えて

～ 本活動により顕在化した課題とマップの活用 ～

広島湾情報マップの作成を終えての新たな課題

① 規制による親水活動の制限

釣りは工業化が進んだ沿岸域でも誰もが気軽に体験でき、海の恵みを直接的に実感できるマリレジャーの一つである。

しかし、港の管理や安全確保の面から遊漁者の立ち入りが制限され、特に近年は規制が強化されているという意見が多かった。釣り公園等の施設整備や遊漁可能地区の情報提供システムの構築、安全性を考慮した上での規制緩和などが必要であると考えます。

② 海ゴミによる海の魅力の低下

広島湾の魅力の一つに「多島美」を挙げる意見が多かった一方で、海岸線に漂着するゴミの多さを懸念する意見も多かった。

- ・ゴミ自体の量が多く処理が困難
- ・生物への被害と生態系への影響
- ・水産資源、景観、港湾施設へのダメージ
- ・他の国から流れ着く越境問題



③ 市民の海に対する距離感

本マップは「人と海とのつながりの再生」を目的に実施したが、市民の海に対する関心は予想以上に低く、現地踏査やヒアリング、座談会をきっかけに広島湾の現状を知ったという意見は多かった。

ただし、これは市民や観光客など、見る側だけの問題ではなく、眺望スポットの整備（案内板の設置、駐車場の整備）や沿岸域へのアクセス整備、親水スポットの整備など、見せる側としてもさらなる創意工夫が必要であると考えます。

今後の活動

広島湾に興味を持つ→自然とのつながりが生まれる→自然を考える→環境問題を考え、取り組む



上記流れを生み出すためにまずは、この広島湾情報マップを作成し、“人と海とのつながり”から始めることが大切である。

また、この“人と海とのつながり”を再生していくためには、人々の広島湾に対する理解と関心を高めていくことが重要であり、環境教育・普及啓発活動等をはじめとする様々な取り組みの実施は、その第一歩として重要といえる。

今回の活動に参加し、広島湾情報マップを多くの人々に読んで頂くことで、地域の人々が広島湾の海の魅力を再確認し、それを若年層や他地域の人に伝えることで、より身近な場面で海を感じ、触れ合う機会を創出してもらいたいと強く思った。また、多くの市民がより環境問題について考え環境活動に参加してもらうために、私個人としても、これからも環境活動に積極的に参加し、多くの市民と関わっていきたいと思う。

